

この事を F A X 通信で書き始めて 3 年目となりました。すでに小糸川アジサイ祭りはありましたが、「さくら祭り、小糸川タウン、花火大会」はこの F A X 通信で提案してきました事が少しはキッカケになったか？と思っています。

先日、通称カメ橋から周西公民館までの小糸川沿堤と中洲の草刈や掃除を会議所が中心となり、地元各種団体、個人の参加で早朝より行われ、流木の残骸や野バラの群生に悩まされ、野鳥や野うさぎの出現に驚かされながら、直接川辺の自然に触れて、動植物が川と共生する生態を知った事は、今までの無関心さへの反省も大いにありました。

かつてこの地方は、4 世紀位から 7 世紀にかけて、須恵王国？として極めて栄えた（朝日高山氏）地域と思われま。

縄文、弥生の遺跡として、宮下、鹿島台、泉、羽黒下、姥田、小山野等から郡、常代をえて八重原九十九坊廃寺跡、三直貝塚、道祖神裏古墳から更に小糸川河口付近の内裏塚・・・稲利山へと拡がった古墳群は全国でも有数なものであります。この地域は縄文、弥生の古墳から、天然の優れた立地条件を沢山備えた豊かな大集落だった推察され、これらの集落を粟倉から下流大和田まで、凡そ 30 か所の舟河岸を集配基地として、舟運で村々の経済でつないで栄えてきたと伝えられています。

近代での世界主要都市を見ても、セーヌ川とパリ、テムズ川とロンドン、ドナウ川とウィーン、プタペスト、ポトマック川とワシントン、上海と黄浦江、隅田川と江戸、賀茂川と京都・・・と世界の都市もまちも、村も川と一体になって共に栄えて来た歴史があります。戦後、洪水被害、水難事故防止、水資源確保のために、治水事業が優先され、河川は危険なものとなされ、人と川の関係が隔てられて、いつか埋め立てられ覆われてきました。そして川を失くした都市群は、激しい経済競争社会となってストレスを生み、年間 50 万人もの自殺未遂者を作っております。

千葉県に来られる観光客の多くは、ディズニーランドを除けば多くは神社仏閣と水のある所であります。君津では亀山、片倉ダム、清水溪流広場へと 80 万人から今年は 100 万人の人が訪れるだろうと期待されており、郡ダムもこれから期待されるスポットであります。

山古志村を始めとして、日本の辺境地、離れ小島の村づくりに多大の貢献した旅する巨人「宮本常一氏」は村や町を豊かにしたければ集落に木を植え、花を咲かせ、その実を食べに鳥達がさえずり、川辺に子供らが遊び、魚を釣る豊かな村を作れば他から人は集まってくる。補助金は無い方が良く！村人達の活力が奪われてしまうから・・・と言います。

「君津市民の歌」に唄われている、君津市を再現させる「小糸川ルネッサンス」を目指して漁協、農協、自治会、ボランティア、商店会、女性会、行政、新日鐵、そしてマスコミの方々に互いに声を掛け合って、協働して相乗効果を上げたいものです。豊かな町づくりとは親子 3 代、4 代がこのまちで共に暮らせることでもあります。

今年の夏は「小糸川川下り」を一緒にしてみませんか・・・？

このまちの素晴らしさがもっと見えてきます。